

Dr. 板東のメディカルリサーチ No. 181

〈欧州で 先端医療 eネーション?〉

世界中でいま注目されている、電子健康記録(Electronic Health record, HER)。すべての人々の健康や医療データがまとめられ、クラウドに登録されている。患者がいつこの病院にかかっても、担当医がインターネットでアクセスすると、すべての医療情報を把握可能だ。具体的には、これまでの病歴や診断、治療、X線やCTのデータ、アレルギーの有無など。これらは重要かつ安全で、リスクを回避し最適の医療を提供できる。

◆デジタルが 医療を進化 エストニア

さて、この国はいったいどこであろうか？ 北欧でバルト海沿岸に並ぶバルト三国のエストニアである。かつてロシアの支配下にあり、ロシア革命後に各国が独立したが、1940年にソ連に併合された。半世紀後に東欧革命が勃発し、1991年に再びバルト三国は独立を果たした。三国とも首都の旧市街区域は世界遺産に指定されている。以前、三か国を訪れた際、高速バスで各首都を数時間で移動でき、街並みはとても美しかったことを思い出す。

なぜこのような発展が可能となったのか？ いくつかの理由が挙げられよう。エストニアには特別な「遺産(レガシー)」がみられない。そのためエレクトロニクス(e)を活用する「eネーション」を目指す新たな国策が提言された際にも、抵抗する既得権益者はなかった。そこで、行政や社会福祉の全般に対して、効率的に業務が進む「ペーパーレス社会」を到来させ、デジタル化が円滑に推進できたといえよう。そして特に医療が最先端のレベルと評価されている。

◆社会的 権利をうまく 活用し

同国は、「Internet is a social right (インターネットへのアクセスは基本的人権)」と標榜し、国民全員が電子IDを持ち、99%の公共サービスをデジタル化した。デジタル化されていないのは、結婚や離婚、不動産の売却の手続きぐらいとされる。

デジタル化に際して重要な3点を挙げる。①

教育基盤：子供のIT教育を1990年代から開始し、プログラミングやロボット教育、e-Schoolなどが生活に溶け込む社会だ。②**操作性**：各自がマイページにログインすると、自分の過去の学業成績から医療情報にいたるまで全てが見られる。ただし、ヘルスケアに関する自身の情報の公開はon/offを自分で決定できる。③**信頼性**：マイページに他人がアクセスした場合、ログ一覧がいつでもチェック可能でプライバシーを保持し、分散型のシステムを構築して単一障害点をなくしセキュリティを担保している。

我が国でもデジタル庁設置が最優先課題と位置づけられている。デジタル庁は今後司令塔となり、日本の未来図を明るくものとし、個人社会のさらなる発展に期待したい。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)

